

# 英米言語文化コース



## 英米言語文化コースとは

このコースには名称通り、英語にまつわる文化、言語、それらのエッセンスが凝縮された文学を学び、研究できる幅広さが備わっています。英語圏文化や文学、言語を理解する能力は英語運用能力以上に今日のグローバルな世界理解に不可欠です。まさに二一世紀の今日に生きている人々の考え方や生活習慣を理解することが必要です。コースでは英語によるコミュニケーション理解そのものの授業から英語圏の言語文化の神髄を探る授業やゼミが提供されており、将来、国際的な舞台上で活躍したいと願っている人のみならず、世界の言語文化のルーツや現象を探求したい人も大歓迎です。

## 古賀先生の研究

わたしの研究領域は主として北米文化のエッセンスを表わす詩です。アメリカやカナダの文化で培われた文学にはイギリスやその他の英語圏とは異なる独特な展開があり、近年ノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランの歌やルイス・グリユックという女性詩人の言葉に代表される米文化のエッセンスを追いかけています。これまでに二〇世紀前半に活躍したウォレス・ステイヴンスという白人詩人やブルースやジャズといったアメリカ音楽を詩にしたラングストン・ヒューズという黒人詩人について本を書いています。現在は今日のラップやヒップホップというストリート音楽のルーツでもある一九六〇年代の対抗文化やブラック・パワールの黒人詩人アミリ・バラカを研究しています。



准教授  
こが 古賀 哲男 先生

## 英米言語文化コースを選んだ理由

幼い頃から外国の物語を読むことが好きでした。高校で英語を学ぶ中で英語の原文と日本語翻訳を意識するようになり、日本語で読んできた物語の原文を自分なりに解釈できるようになりたくて、このコースを選択しました。

## 英米言語文化コースの魅力

英語に関わることであれば、文学・演劇・言語・文化と幅広く学習することが出来ます。一つの分野を探求する中でも、それぞれの分野が相互に関わり合っていることで多くの視点から自分の研究分野に取り組むことができま

## 面白いと思った専門科目

「科目名」英米文学演習Ⅳ  
さまざまな英米文学小説に見られる技法と作者の意図に着目しながら作品分析の方法を学びます。時代や地域を問わず幅広い作品に触れてそれぞれを比較できるので、自分の興味・関心が広がる授業でした。

## 卒論テーマ例

- ・『月長石』論—フランクリンの曖昧性がもたらすイギリスの価値観の揺らぎ
- ・ nice の意味が文学作品において、文語か口語かによってどう変わるか
- ・ The Structure and Strategy of the Communication Gap between the U.S. and Japan from a Cultural Perspective

## 『とびっ』とは？

「扉」を英語で言うと door となりますが、この単語の音には d 音に含まれる鈍い破裂音が含まれています。あるいは gate にしても g 音に含まれる、これまた摩擦を伴う濁音が入っています。「門戸を開く（閉じる）」と言う時に扉とは境界を示す障害物であり、内と外を隔てる事物のもつ重たさ、その意義が感じられます。他方、似たような意味の port や portal、porch という英語には p 音のもつ軽い破裂音に示されるような流動性・反発性があります。あるいは扉の一種である蓋や吊るし扉である flap、やんには flip、top という単語には f 音のもつ空気のような軽やかさがあります。今の社会ではこれまでのピラミッド的な組織のもつ、それゆえに内と外を峻別する固い扉のもつ意義よりは、よりフラットなネットワーク組織のもつ柔軟な境界としての border や boundary、やんには edge や verge、ひいては rim や brim といった周縁によって辛うじて困られる境界を記すものを通して人々がより自由に入力できる世界になるのでは？（文・古賀先生）



4 回生  
たなか はるき  
田中 陽さん